第２回北九州市観光振興プラン検討会　議事録

１開催日時　　令和４年８月２４日（水）１０時から１２時
２開催場所　　ＡＩＭビル３階　３１２会議室（北九州市小倉北区浅野三丁目８番１号）
３出席者（構成員）※敬称略、５０音順
　　植田　詩生　　後小路　雅弘　　加倉井　良多
　　菅本　美空　　マッコームズ　夏野　　南　博（座長）
４議題等　　（１）市政モニターアンケート結果報告及び次期観光振興プランの概要説明
　　（２）意見交換
５議事概要
（１）市政モニターアンケート結果報告及び次期観光振興プランの概要説明
　事務局説明
（２）質疑応答・意見交換
　ア　基本方針・目指す姿について

- 観光は多様な産業と密接な関係にあるため、観光が元気になれば地域社会が活性化していくものである。そのため、「観光の好循環」をつくることを通じて、北九州市の活性化を図るなど、観光にとどまらない方向性が最終的な目指す姿としてあるべき。
- 現状ではインバウンドは見込めないため、住んでいる人やマイクロツーリズムに視点を置くことは好ましい。
- 暮らす人の自己認識が大切で、そこからの発信によって人を惹きつけるということが重要。
- 前回のプランは外から呼び込むという視点だったが、今回は暮らす人（マイクロツーリズム）の目線が入っていることが、前回との違いに感じた。国の指針である「住んでよし、訪れて良し」の方向性に沿っていて良いと思う。
- 観光において、わくわく感はとても大事になるため、その仕掛けづくりをやっていくという意思表示をすることはとても大切である。
- 印象に残っている観光地は、地元の人との交流があった場所であるため、市民が主体となって振興していき、市民と観光客の交流を持つといったイメージしやすい内容にしてはどうか。
- 観光客として来てもらい、観光や交流を通し友人となって帰っていただき、帰った場所で北九州市を発信してもらい、それを見た他の人が来たいと思う循環ができるとよい。
- 暮らす人と訪れる人だけでわくわく感を演出することは難しいため、観光客以上、定住者未満の「関係人口」の視点を取り入れてはどうか。

　イ　実現するための戦略と主な取組について

- 戦略Ⅳの観光関係組織や団体で体制づくりをするのは従来型であるため、小学、中学、高校、大学などの観光関連以外の組織や、関わりのある個人など、多様な主体と協働してい

くことが重要である。

- 危機管理（災害や感染症）の面について、安心して観光できるといったことを打ち出していくべき。
- 観光地などのフリー素材をもっと増やせば、メディアにとどまらず市民も活用でき、クチコミがさらに広がるのではないか。例として直方市はフリー素材サイトとコラボしていて、それを見るだけで面白そうなまちだと思う。
- 近代化遺産や工場などをもっと観光資源へ活用できるのではないか。
- 田園地帯や里山などで行われているエコミュージアムという、一つの地域全体で生活自体をミュージアムとして見せるものがある。学芸員が運営するのではなく市民全員が主体となる仕組みができるため、北九州では近代化遺産をミュージアムとして見せるような発想を入れてはどうか。
- 基本データの収集のためにも、この５年間で観光ＤＸ化の推進を基本的なところに位置付ける必要がある。
- ＳＤＧｓは教育旅行誘致においても北九州市の強みとして活きてくる。最近ではＳＤＧｓのカーボンオフセット旅行も注目されている。北九州市での旅行中はＣＯ２を排出させないといった宣言のもと、新しい観光の在り方を提唱してはどうか。
- 観光関係事業者間の連携が取れておらず取組を個々で行っているため、全体の統一感が少ない。観光地づくりとは観光を活用したまちづくりであるため、関係者同士の連携を密にしていく必要がある。
- 市民と観光客が交流する仕掛けとして、市民自身の趣味などをコンテンツとして観光案内をすると、ガイドブックには載らない奥深い魅力が伝えられるのではないか。
- 戦略Ⅰ～Ⅳの中で観光地として当然取り組むべきことと、北九州のアピールポイントとして強化していくことを整理していく必要がある。
- 教育の場としてＳＤＧｓを扱うのではなく、観光におけるＳＤＧｓの目標設定をし、それを実現するための方策、目標について具体的に提示してはどうか。